

2025年9月

CWS JAPAN NEWSLETTER NO.108

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます

防災の日に寄せて 災害時の福祉的支援・ DWATの役割とは？

みなさん、こんにちは。CWS Japanの五十嵐望美です。9月1日は防災の日ということで、全国各地で防災訓練や防災啓発の取り組みが行われています。

CWS Japanは人道支援組織として国内外でさまざまな災害対応や防災支援を行っていますが、そのなかでも医療保健や福祉分野の専門職の方々とも連携を強化してきました。

こちらの記事では世界災害看護学会に参加したレポートが紹介されています！



黒田裕子記念アントレプレナーシップ賞
授賞式に出席しました

from  CWS JAPAN
Church World Service

そこで今回は「災害福祉」をテーマに、最近の動向や「DWAT（災害派遣福祉チーム）」の役割についてご紹介します。

災害関連死を防ぐ福祉的支援

災害で命を落とすケースと聞くと、建物の倒壊・火災・津波といった直接的な被害によるもの（災害直接死）が思い浮かびやすいかもしれません。しかし、長引く避難生

活や環境の悪化によって持病が悪化したり、体調を崩したり、孤独やストレスが重なって命を落とす「災害関連死」も近年大きな課題となっています。

＜これまで国内で起きた主な大規模災害による犠牲者数＞

・阪神淡路大震災（1995年）

死者・行方不明者：6,437名（うち災害関連死：919名）

・東日本大震災（2011年）

死者・行方不明者：22,588名（うち災害関連死：3,808名）

・熊本地震（2016年）

死者：278名（うち災害関連死：223名、地震後に発生した豪雨被害による関連死：5名）

・能登半島地震（2024年）

死者・行方不明者：658名（うち災害関連死：428名）

※2025年9月3日時点

特に熊本や能登半島といった地方の都市部以外の地域では、高齢者の割合が多い一方で、災害が発生したときに医療・福祉サービスが十分に行き届かない場合も少なくありません。そのため、災害による直接被害よりも、避難生活や環境の変化による負担を受けやすい被災者が命を落としてしまうケースが多く、災害関連死の数が直接死を上回っています。

これまで日本の災害対応では「災害対策基本法」をベースに、行政・企業・支援団体が連携し、医療や保健分野を中心に進められてきました。ただし、現場では災害関連死をはじめとして、災害時の生活支援や福祉的ケアの必要性が明らかになっていましたが、医療・保健分野に比べると福祉分野の法体制の整備は遅れを取っていました。

しかし、2024年に発生した能登半島地震を契機に、災害時の福祉的なニーズに対応できる法体制の整備が進められることになり、2025年7月から施行された災害対策基本等の法改正ではようやく福祉サービスの提供を国が費用負担する救助の種類として位置づけられるようになりました。

参考：NHK「“災害関連死の防止につなげるのがねらい” 法改正でどうなる」

特に、高齢者や障害者、乳幼児など配慮を必要とする人にとっては、環境が整っていない避難所に行くことが難しく、在宅避難や車中泊を選ばざるを得ないケースも少なくありません。（また、CWS Japanがこれまで支援してきた外国人被災者についても、同様の状況があります。詳しくは、秋田豪雨災害での経験を紹介した以下の記事をご覧ください。）



一方、従来の法制度ではこのような避難所以外で生活する被災者への支援はほとんど想定されていませんでしたが、今回の法改正によって、これまでのように「場所」に基づいた支援ではなく「人」を基盤とした支援が、より円滑に行えるようになりました。

DWATの役割

さて、皆さんはDWAT（災害派遣福祉チーム）をご存知でしょうか？

災害時には、他にもDMAT（災害派遣医療チーム）やDPAT（災害派遣精神医療チーム）、薬剤師、看護師、保健師、管理栄養士、リハビリ職など、さまざまな専門職のチームが派遣され、支援活動が行われます。その中でDWATは、名前のとおり福祉的な支援を担うチームです。

DWATのメンバーは主に介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員（ケアマネージャー）など、福祉支援を行なっている専門職で構成されています。各都道府県ごとに設置されており、被災自治体から派遣要請に応じて派遣され、交代しながら継続的に支援を行います。DWATは、主に発災から3日～3ヶ月が経過した時期に活動することが想定されています。

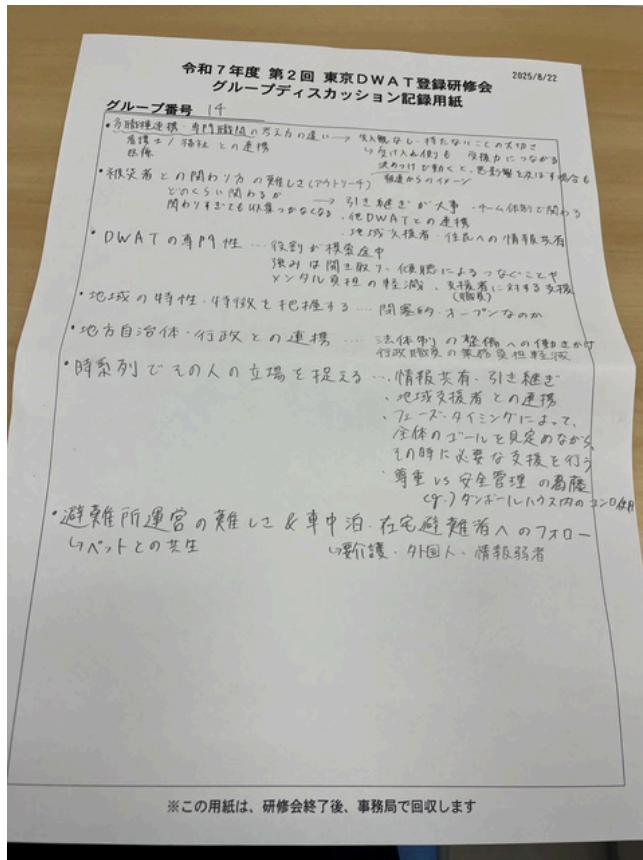
参考：RNC news every.【every.みんなの防災】DWATってなに？ 2021/09/16放送

そして、わたしは社会福祉士と精神保健福祉士の国家資格を持っており、それぞれの職能団体にも所属していることから、先日開催された東京DWATの登録研修会に参加しました。

研修では、外部支援や福祉支援の必要性、DWATに求められる役割に関する講義や、昨年の能登半島地震に東京DWATとして派遣活動に参加した方や他県DWATの活動報告を聞くことができました。さらに、受講者同士でグループディスカッションを行い、DWATとして今後どのような支援が可能かについて意見交換をしました。

今後の災害支援で求められること

今回の記事ではDWAT研修会を例に紹介しましたが、それ以外の機会でも、現場で高齢・障害・児童・生活困窮・司法など多岐にわたる福祉支援に携わる方々と意見交換を行なっています。そこで、わたしが災害支援に取り組んでいることを話すと、「もし自分が支援している現場で災害が起きたらどうなるのか」という不安な声が必ずあがり、そこからさまざまな現場の課題を伺うことができます。



研修会のグループディスカッションでは
さまざまな話題になりました©CWS JAPAN

今年の法改正の動きは、長年現場が求めて
きた改善の声を行政がようやく反映した結果だと思
います。一方で、今後も災害リスクが高まる中、状況に応じて臨機応変に発
災時に必要な支援が行き届く体制づくり
は、ますます重要になっていくでしょう。

また、DWAT研修会で示された被災者支援の
三原則「被災者中心・地元主体・協働」
は、CWS Japanが国内外の人道支援で大切
にしてきたアプローチとも重なりました。

災害時に派遣される専門職チームだけでなく、CWS Japanのような民間支援団体や個人のボランティアが被災地支援に入る時
も、一時的な外部支援者としての立場を意識しつつ、被災者を中心に据えることが大切です。特に発災直後は、現地の支援者をどう支えるかを考えながら、被災地が自ら
の力で復旧・復興できるよう後押しする支援の重要性を改めて実感しました。

今後も、引き続き福祉分野のネットワーク
や連携の機会を活かし、情報や知見を共有
しながら、災害時に誰も取り残されること
のない社会の実現に向けて取り組んでいき
たいと思います。

CWS JAPAN 支援活動のための ご協力のお願い

CWS Japanでは、パキスタン洪水、ア
フガニスタン地震の緊急支援を行っ
ています。

皆さまの温かなご支援をお願いいた
します。

※CWS Japanへのご寄付は、寄付控除
の対象となります。



防災月間に寄せて 防災視点を持って留学生とまち歩き

ディレクターの牧です。まだまだ残暑厳しい中、台風が関東に接近する前日9月3日(水)に多文化防災まち歩きを開催しました。この防災まち歩きは、CWS Japanが大久保でコミュニティカフェを開店して以来、毎年続けている活動の一つで、地域の日本語学校との協働企画です。今年は3月にミャンマーで大規模地震が発生したこともあり、学校側から今年は3回開催して欲しいという依頼を受けました。今回がその第1回目でした。

留学生のまち大久保

多文化共生のまちとして知られる新宿区では年々外国人人口が増加し、毎年記録を更新中です。8月時点で、全人口の14%超、約7人に1人が外国人という状況となりました。その中で最も多い年齢層は20代であり、在留資格別では、留学生(34.5%)が第1位となっています。特に、私たちの活動地域である大久保周辺は日本語学校の集住地区であり、留学生人口の密度が最も高いエリアです。日本語学校はコースによって年4回、新入生が入学することもあり、防災まち歩きの参加者は毎回入れ替わります。

今回の防災まち歩き参加者の出身国は、ネパール・ベトナム・モンゴル・カザフスタン・タイという顔ぶれで、直接的に地震を経験したことがない留学生が参加しました。多くの留学生は、日本人学生とそう変わりがなく、自宅・学校・アルバイト先が生活圏であり、主にその3地点間を日々移動するだけで、帰宅後は寝るだけというような生活状況です。つまり、日中は地域にいない学生達が、平時から地域とつながりを作るには非常に困難なライフスタイルを送っています。

「地域とは何か?」を問う防災まち歩き

今回の防災まち歩きでも地域内の「避難所」「避難場所」「帰宅困難者一時滞在施設」を実際に歩いて回りながら、それぞれ

の機能の違いについて説明しました。新宿区では、避難所に指定されている公立学校の前に以下のような看板が掲示されています。



避難所となる小学校前の看板 ©CWS JAPAN

ここで地域とは何か、また、避難所の運営主体である町会の説明をすることになる訳ですが、これまで「町会」のことを知っていた学生はほとんどいませんし、自分が住んでいる地域の町会がどこなのかを知っている留学生に会ったことはありません。防災まち歩きの中で日本の防災に関わる活動は全て町会単位で地域住民が役割を担っていることを説明します。

漢字だらけの防災用語

それにしても外国人に日本の防災のしくみを説明する度に感じるのが、防災用語の難解さと漢字の多さです。「避難所」「避難場所」「帰宅困難者一時滞在施設」「防災倉庫」「避難経路」「避難訓練」「災害時要援護者名簿」…。

漢字を使う中国人にとっては想像しやすいかと思いますが、それ以外の外国ルーツの人たちにはどんなにフリガナをふっても分かりにくいのではないかでしょうか?そういうことからもピクトグラムは便利なツールなので、防災まち歩きでも紹介し、覚えて帰ってもらっています。



避難所・避難場所を表すピクトグラム

消防署とのコラボ・将来への展望

今回初めての試みとして、新宿消防署員の方との協働がありました。外国人向けの防災教室について同署員からご相談を受け、

「それなら、私たちの防災まち歩きに参加しませんか？」とお誘いした結果、まち歩きに同行していただくことになり、最後に消火訓練をご指導いただくことになりました。



避難所・避難防災まち歩き後の消火訓練
© CWS JAPAN

現時点で東京都内の消防団には外国籍の団員はいませんが、日本人の少子高齢化が急速に進む中、防災の担い手として外国人財の必要性は時間の問題だと感じています。このような地域の消防署と地道に協働を重ねていく中で、日本社会の意識が変わっていくことを願っています。

(文：ディレクター 牧 由希子)

さまざまなSNSで情報をお届けしています

CWS Japanでは各種SNSで、日ごろから情報をお届けしています。お好きな方法で最新情報をぜひチェックしてみてください



各種SNSは
ここをクリックor
QRコード読み込み

認定NPO法人CWS Japan
@Japan_CWS

「防災まち歩き」と「タイ伝統工芸づくり」|9月のコミュニティ・カフェ@大久保
こんにちは！CWS Japanの五十嵐望美です。今月もコミュニティ・カフェ@大久保(@commucafe2023)のレポート記事をお届けします！



cws_japan

他... + 三

その気持ち、
シェアしよう

認定NPO法人 CWS Japan



688
投稿

1,252
フォロワー

2,084
フォロー中

CWS Japanは国内外で災害対応・防災支援をするNPOです。2011年の東日本大地震を機に、日本での活動を開始しました。

災害時に支援の手が届かず取り残される人々を... 続きを読む

linktr.ee/cwsj

⑥ cws_japan



... 設定

CWSJapan

CWS Japanは国内外で災害対応・防災支援をするNPOです
2011年の東日本大震災を機に、日本での活動を開始しました。

毎週金曜日に団体の活動や職員の想いを載せた記事を配信しています

洪水とともに生きる村で インドネシア 「I-CREATE」事業から 見えてきたこと

インドネシア東ヌサトゥンガラ州マラカ県。雨季には洪水が頻発し、人々の暮らしは「水に浸かること」と隣り合わせです。CWS Japanはこの地で、防災力向上のための「I-CREATE」事業を進めています。

今回は、社内勉強会で共有された現地の様子をもとに、マラカ県での洪水の背景と、住民とともに進めている取り組みをご紹介します。

※I-CREATE事業

Improving Community Resilience
Through Enhanced Adaptation and
Technical Assistanceの略称

マラカ県では、なぜ洪水が“日常”なのか？

マラカ県は河川の下流域にあり、雨季になると洪水が繰り返し起こり、洪水のある日々が「日常」とも言える状態になってしまう土地です。背景には大きく2つの要因があります。

- **土砂の堆積**：地滑りなどで崩れた土砂が川に流れ込み、河床かしょう（川の底）がどんどん高くなっていく。
- **地質の特徴**：堆積岩（Sedimentary Rocks）でできた比較的新しい地層が多く、急勾配で崩壊しやすい。

これらに加えて、川からの越水だけでなく、内水氾濫（水路や排水があふれること）も多く、雨季には至るところで水がたまってしまいます。

村人との現地調査から 見えてきたこと

2025年8月にはインドネシアの現地に赴き、現地調査を実施しました。2回目の渡航となる真弓から、調査の様子が共有されました。その一部を写真と共に皆さんにもお届けします。



現地調査では、村の人々と一緒に歩きながら、「ここは毎回水があふれる」「水がこの方向に流れる」など、経験をヒアリングしながら情報を集めていきます。
©CWS JAPAN



洪水時に命を落とす大きな原因是「水路の場所を知らないこと」。普段はただの草地に見えていても、実はそこに水路があることがあります。洪水時に落ちてしまう。
©CWS JAPAN



水路に草が生えている=土砂が堆積しはじめているサイン。内水氾濫（水路や排水があふれること）の要因となる。
©CWS JAPAN



興味深いのは、堤防の基礎に
サンゴが使われていること。
調べてみると実は良質な建材であることが
分かったそうです。©CWS JAPAN

洪水の影響で崩壊したと思いま る場所に…

こんな場所もありました。堤防が広範囲に
わたって崩壊してしまっています。

川の増水から起きた崩壊だと村人たちは
思っていたようですが、その場合は壊れた
堤防は写真のようにとどまらずに流されて
なくなってしまいます。

つまり、壊れた堤防がその場に残っている
ということは、崩壊した理由は別にある説
が濃厚。そこでさっそく調査を開始しま
した。



広範囲にわたって川側に
堤防が崩れてしまっています。
壊れた堤防は川下へ流れずに
そのまま留まっています。 ©CWS JAPAN



堤防の上部に水路があったことを発見！©CWS JAPAN



水がしみこんでしまった様子のイメージ©CWS JAPAN

調査の結果、堤防の上部にある水路の亀裂か
ら水がしみこみ、その周辺の堤防崩壊につな
がっていたことがわかりました。

このように現場を地域住民以外の目線で見る
と、新しい気づきがあり、次なる災害を防ぐ
一手を検討することができます。

調査を支える必需品「赤白ポール」

現地調査でよく登場するのが、赤と白のし
ま模様のポール。調査の必需品である「赤
白ポール」です。1セグメント20cm、全長
2mのポールを立てて写真を撮ると、簡易的
な測量が可能になります。

こうした現場では記録写真を撮るときに
「赤白ポールを入れ忘れる」と怒られる」と
冗談が飛びほど重要なツール。現地でも調
達可能で、国際的な“測量の共通言語”に
なっているそうです。



赤白ポールの使い方を説明する様子 ©CWS JAPAN



実際に赤白ポールで測量 ©CWS JAPAN

ハザードマップと リスクコミュニケーション

このように、現地調査を行いながら「危険な場所を地図に落とし込む」ことは少しづつ進行していますが、課題もまだ多くあります。

日本のように「安全な場所も明示する」ハザードマップは少なく、危険な場所を把握するだけにとどまっていることがそのひとつ。そしてもうひとつが、住民も含めて「地図を見る文化」が根付いていないため、リスク情報がうまく伝わらないという課題です。

ハザードマップを現地の人々の命を救う、意味のあるツールにするには、これからリスクコミュニケーションの工夫を検討する必要があります。

した。



過去にサイクロン・セロージャの時、
JCEとCWS JAPANが作成したハザードマップ。
行政オフィスに掲示されているものの、
デジタル化や精度に課題あり。 ©CWS JAPAN

まとめ

洪水対策というと「大きな堤防をつくる」ことなどハード面の整備をイメージする方が多いかもしれません、実際にはその土地の地質や、土地の利用方法、住民の文化や暮らし方などが密接に関わっています。村人と歩き、声を聞きながら「どうすれば安全に暮らせるか」を一緒に考えていく——そんな小さな積み重ねこそが、災害に強い地域を育てていくのだと思います。



村の皆さんにヒアリング ©CWS JAPAN

(文：コミュニケーション担当

高橋明日香)

防災まち歩き」と 「タイ伝統工芸づくり」 9月のコミュニティ・ カフェ@大久保

皆さん、こんにちは！CWS Japanの五十嵐
望美です。今月もコミュニティ・カフェ@大
久保のレポート記事をお届けします。

日本語学校生と防災まち歩き

9月は防災月間ということで、今年も百人町
にある日本語学校（友国際文化学院）の皆
さんと『大久保多文化共生まち歩き』を猛
暑の中でしたが、実施しました！

2025/9/3

大久保多文化共生防災まち歩き



今回の防災まち歩きでは、ネパール・ベトナム・モンゴル・カザフスタン・タイ・日本人学生に高麗博物館スタッフ・明星大学教員・新宿消防署員が同行するという多種多様なメンバーで、大久保・百人町界隈を1時間超かけて歩きました。

留学生の多くは、学校・自宅・アルバイト先という生活圏内での移動が中心であることから、今回歩いたルートは普段の生活では使わない場所です。

また、今回参加した留学生の中で出身国で直接地震を体験した人は一人もいませんでした。そんな学生たちに「避難所」「避難場所」「帰宅困難者一時滞在施設」の役割を説明し、実際に地域内の避難経路を歩きながら現場を確認したところ、それらの違いやシステム・ルールをよく理解してくれたようです。

今回は、新宿消防署の方にも同行していただき、最後に消火器訓練も行うことができ、より実践的なプログラムを提供することができました。

先日の記事でも当日の様子について知ることができますので、こちらもあわせてご覧ください。



タイの伝統工芸「プラータピアン」 作りと一緒に体験！

9月第3週目のカフェでは、タイの伝統工芸「プラータピアン」作りと一緒に体験するカフェ企画を開催しました。

プラータピアンとは、健康を祈る意味を込めてタイで作られている吊るす飾り（モビール）で、ココナツツヤパーム・ヤシの葉を使って編んで魚の形を作ります。

しかし、編み方が複雑でかなり難しく、最初は何度もやり直しをしながら作っていましたが、中には作り方をマスターしてスイスイと綺麗なプラータピアンを作り上げていく強者もいたり…！？それぞれ試行錯誤しながらも、とても笑いにあふれたクラフトの時間でした。

2025/9/17 タイ伝統工芸体験



タイではお土産屋さんなどでも様々な色合いや
描かれたプラータピアンが売られているそうです
©CWS JAPAN



今回は2本の乾燥させたヤシの葉を使って
作りましたが、編み方がとても複雑で
試行錯誤しました ©CWS JAPAN

また、最後にはタイ語講座も開催されて、
みんなでタイ語の挨拶や自己紹介なども学
ぶことができました！

今回初めてカフェを訪問してくださった参
加者や初ボランティアの方とも一緒に

さまざまな話やご近所話などで盛り上
がり、カフェの時間が終わっても話が止ま
ない様子で、とても賑やかな会となりま
した。



初めてのボランティアの方や初参加の方も含めて、
一緒にプラータピアン作りを楽しみました
©CWS JAPAN

タイクラフト企画をリードしてくれた2人からも、カフェの感想文をもらいました。

「来てくださいました皆さん、ありがとうございました！プラータピアンを作るのはとっても難しかったですね～。でも、難しかったからこそ、みんなで笑いながら、作れたことが非常に嬉しかったです！また、タイ語の挨拶を練習してみたり、タイとの関わりをお話ししたりできて楽しかったですね！来れなかった方もぜひ次のコミュニティカフェにお越し下さい～！ゆったり色々な人とお話しできる素敵な場所です。また、コミュニティカフェでお会いしましょう～！」

「『プラータピアン』タイクラフトのワークショップにご参加ください、誠にありがとうございました。まだプラータピアンの編み方を覚えていますでしょうか？教える立場のわたしも、皆さんと一緒に試行錯誤しながら、きれいなプラータピアンを完成させることができました。笑顔いっぱいで笑い合いながら、とても貴重な時間を過ごせたと思います。わたしの国の文化に興味を持っていただき、本当にありがとうございました。“ຂອບຄຸນຄົບປັບ”（コープンクラップ）」

10月のカフェ企画のお知らせ

10月のカフェは、1日（水）、13日（月・祝）、25日（土）に営業いたします（15日はお休みになります）

日時：毎月第1・3水曜日 13:00-17:00
場所：日本福音ルーテル東京教会
東京都新宿区大久保1-14-14 (JR新大久保駅から歩いて5分)

10月の予定

営業日	イベント企画
10月1日（水） 14:00-15:30	災害×地域日本語教室：中能登町 地域日本語教室ケーススタディ
10月13日（月・祝） 11:00-16:00	大久保まつり 「ワールド・バザール」出店
10月25日（土） 15:00-18:00	ルワンダ・カフェ (参加費無料・事前申込不要)

※イベントの内容・日程は事前のアナウンスなく変更する可能性がありますのでご了承ください。

最新情報はSNSで
お知らせしています！

[f](#) [Instagram](#) [X](#)

[QR](#) [QR](#) [QR](#)

10月第1週目のカフェでは、地震・豪雨災害の被災地・能登からゲストをお招きし、『災害×地域日本語教室：中能登町地域日本語教室ケーススタディ』を開催します！

能登半島地震発生時の地域日本語教室が果たした役割についてお話をうかがい、今後の大規模災害発生への備えについて学び合います。

また、10月13日（月・祝）は毎年恒例の大久保まつりに今年も出展いたします！大久保まつりでは、いつもの場所・日本福音ルーテル東京教会にて、さまざまな地域・国のフードや雑貨などを販売します。ぜひご来場ください！

災害×地域日本語教室

中能登町地域日本語教室ケーススタディ



地震災害から1年半が過ぎたものの、その後発生した豪雨災害も受け、復旧・復興はまだ道半ばな能登半島。今回は中能登町からゲストをお招きし、地域日本語教室立ち上げ経緯から、発災時の外国人被災者の状況や日本語教室が果たした役割までお話を伺います。将来の大規模災害に向けて「今、私たちが備えるべきこと」を共に考える企画です。

2025.10.1 (水)

14:00
|
15:30

©日本福音ルーテル東京教会

東京都新宿区大久保1-14-14 (JR新大久保駅から歩いて5分)

ゲストスピーカー おおゆあきよし
大湯 章吉さん



中能登町在住

総務省・地域力創造アドバイザー (2010年)

文化庁・地域日本語教育コーディネーター(2017~2020年、現在)

中能登町日本語教室コーディネーター(2020年～現在)
中能登町国際交流の会会長(2005～2010年)

中能登町国際交流の会会長(2003年～2010年)
中能登町国際交流の会相談役(2010年～現在)

マイ・カフエ

第二章 附圖

次回
Wesley Zaidan

公益財団法人 ウエスレー財団
Wesley Zaidan



主催：コミュニティ・カフェ@大久保
問い合わせ：CWS Japan 牧 (03-6457-6840、public@cwsjapan.jp)



（二）无权处分物的占有——善意取得制度与不动产登记公示制度

10月25日（土）は臨時でカフェを営業し、ルワンダ・カフェを開催します！

ルワンダでは1994年に民族をめぐる虐殺（ジェノサイド）が起きました。それから現地で虐殺の歴史を乗り越えるための和解と平和構築のリーダー育成に取り組んできたゲストをお迎えし、お話を伺います！参加型のアクティビティも企画していますので、ご関心ある方はぜひお越しください。

ルワンダ・カフェ

一癒し・和解・平和の取り組みー

東アフリカに位置するルワンダで起こったジェノサイドから31年経つ今も、国民の間には深い心の傷が残っています。20年間現地のNGO、大学、住民組織と協働し、和解と平和構築のリーダー育成に取り組んできた佐々木さんご夫婦と、ルワンダ人留学生をゲストに迎え、ルワンダの今を知り・体験する企画です。

日時：2025年10月25日（土）
15:00～18:00（14:50受付開始）

場所：日本福音ルーテル東京教会
東京都新宿区大久保1-14-14（JR新大久保駅から歩いて5分）

参加費無料、事前予約不要

GUESTS

佐々木和之さん：ルワンダ・プロテスタン大学准教授（平和・紛争学）、日本バプテスト連盟国際ミッション・ボランティア
佐々木恵さん：ルワンダ布製品オンラインショップ「ウムチヨ・ニヤンサスト」代表

ムレカテ・シユクルさん：ルワンダ・プロテスタン大学を卒業後、文部科学省の国費外国人留学生として、東京外国语大学でルワンダの和解プロセスについて研究

プログラム

①トーク：ルワンダジェノサイド～和解へ+ウムチヨ・ニヤンザの女性たち
②アクティビティ：和解の当事者ロールプレイ体験
③アクティビティ：ルワンダの伝統舞踊体験

主催：コミュニティ・カフェ@大久保
問い合わせ：CWS JAPAN 牧
(TEL:03-6457-6840 E-MAIL:PUBLIC@CWSJAPAN.JP)

お近くにいらした際は、ぜひコミュニティ・カフェ@大久保にお立ち寄りください。

コミュニティ・カフェ@大久保の各種SNSは
こちら。
[Facebook](#) / [Instagram](#) / [X\(旧Twitter\)](#)

（文：プロジェクト・オフィサー
五十嵐望美）

特定非営利活動法人CWS Japan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：
public@cwsjapan.jp
電話：
03-6457-6840

